特定非営利活動法人　山崎・谷戸の会
会報 第112号　2022年11月5日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

今秋は新米が味わえる
はずだったのですが・・・

10/17 稲刈り

今年も台風の被害なく、収穫期を迎えられました。我慢の2年を経て、やっと秋の谷戸まつりで穫れたての農作物をご賞味いただけると楽しみにしていたのですが、今のご時世、これまでどおりの提供が難しくなるかもしれません。畑では秋冬野菜が成長を続け、まもなく落ち葉かきの季節がやってきます。体験学習の小学生たちの収穫祭も行われます。

お　知　ら　せ

第39回　秋の谷戸まつり　11/27(日)　10:00～13:00

場所：野外生活体験広場(荒天中止)

お椀とお箸をご持参ください！

販売（新米・梅干し・紙芝居・絵葉書）
体験（正月飾り作り・ノコギリ体験）
炊き出し（もち・谷戸鍋・おにぎり・ふかし芋）

炊き出しの引き換え券販売開始　10：30～

マスク着用にてご来園ください。コロナ感染症拡大防止策を行っています。ご協力をお願いいたします。

第24回かまくら市民活動フェスティバル

12/3(土)　場所:鎌倉中央公園

市民団体が集い、販売、体験イベントを行います。当会の農芸品などの販売もあります。

12/10(土)、11(日)　場所:きらら鎌倉

交流会・ワークショップイベント会場にて、活動紹介で参加します。

自然だより　～ 今年の秋の谷戸の様子 ～

ミズオオバコ

台風の被害はありませんでしたが、9月になっても残暑が厳しく雨が多かったせいか、生きものに異変が見られます。カラスウリなどのツル植物が例年以上に繁茂しています。湿地ではオオミゾソバが繁茂しすぎたのか、オギやアシに絡みついて倒してしまいました。

オオミゾソバ

稲刈り後の田んぼで、ミズオオバコ（真夏の花）がたくさん咲いていたのには驚きました。赤トンボ（アキアカネ）が非常に少ないことも気になります。今年はセミも少なめでした。

●野外生活体験広場と枯草

ツチイナゴ

谷戸は、連日のように子どもたちの自然体験の場として利用されています。自然の風景はあっても、実際に虫や野草と遊べる公園が少ないからでしょう。当会では、トンボ、バッタなど里山で増やして、来園者と触れ合えるような活動をしています。その一つが野外生活体験広場の一角にある草を刈らずに残した場所です。一般的な公園管理で隅々まで刈られた広場にしてしまうと、生きものの隠れ場所や餌場がなくなってしまいます。子どもたちが草むらで遊ぶ体験もできません。春～秋は刈り残した草むらにカエルやイナゴが隠れていたり、冬は枯草になりますが、アオジ、ホオジロなど野鳥の餌場になり、枯草の根本は、クビキリギス、ツチイナゴなどの昆虫が冬を越す場となっています。神奈川県東部では絶滅危惧種のカヤネズミが巣を作ることもあります。広場の一部に草を残すことは、行政への働きかけも必要でした。たまに苦情が出ることもありますが、理解を得るために立札も立ててもらいました（写真）。刈り残すといっても、全く放任しているわけではありません。

ササなど増えすぎてしまう植物の繁茂を防ぐため、手作業で選択的な除去作業を行っています。現在チカラシバというイネ科植物が安定して生育していますが、場所によっては、コブナグサなど湿地に多い植物も生えてきており、谷戸ならではのさまざまな植物が共存できるような草むらにしています。

チカラシバを刈り残した場所

各班のお知らせ

田んぼ班

今年の収穫量は昨年より多少減りましたが、台風の影響もほとんどなく、順調に稲刈り、はさがけ、天日干しを経て、予定通りに、脱穀を終えることができました。種籾用に足踏み脱穀機と唐箕を使用しました。

10/23 足踏み脱穀機

自然遊び班

「里山探検隊」つるでなわとびができました。（1年）さつまいもが出てくるときは宝がでてくるようでした。（3年）久しぶりに田んぼに入ってとても気持ちよかったです。また来たいです。（6年）

10/16 さつまいも掘り

雑木林管理班

ナラ枯れや大雨、台風、そして猛暑など、木々の生長を左右する出来事が毎年発生しています。稲刈りが終了し、雑木林の調査から活動を再開、今期の除間伐計画を立て、作業を進めていきます。

農芸班

小麦は地道な手作業で選別し、ミネラル豊富な全粒粉にしました。11月は味噌の原料となるたのくろ豆を、足踏み脱穀機やさいづちを使って殻出しし、選別作業も行います。大人も子どもも夢中になります。

植物育成班

湿地の花がとてもきれいです。毎年カナムグラを除去している成果もあると思います。作業が適切かどうかを知るためには、観察がとても大切になります。引き続きツル植物の除去を行いたいと思います。

畑班

作付け場所の大幅な変更をした今年。収穫一番手の田の脇のさつまいもは、つる返しや種芋の選別にも気を配り、期待以上の豊作だった。田の上上段のさといも、中段のたのくろ豆の収穫が楽しみだ。

生態系保全班

湿地に水を引いているパイプに落ち葉が詰まってしまうため、新しい形のネットを設置しました。このパイプは湿地にとって生命線です。少し気遣うだけで湿地が維持できます。みなさんと守っていきたいと思います。

10/26 野草の調査

谷戸の生きもの

ウラギンシジミ
「花より団子じゃなくて・・・・」

その名のとおり翅裏は一様に銀白色。表は、オスは中央部がオレンジ色、メスは銀色だ。谷戸に多いフジやクズが食草なので数は多く、年に何回か発生した後、成虫で越冬する。山崎の谷戸では初夏と秋以降に見る機会が多い。生態系保全班の人たちと農家風休憩舎で昼食をとっていると、よくやって来て周囲を飛び回る。以前から気になっていたので、手持ちのいくつかの図鑑類を見ると、「花はほとんど訪れず、腐果や獣糞に集まる」と書いてあった。中には「動物の死体などで吸汁する」というのも。心配していた「老人や病人に集まる」というのはなかった。（たのくろまめお）

ウラギンシジミ♂　野外生活体験広場

同♀　“F 畑”近く

キタテハ
「カナムグラをあまり刈らないで！」

キタテハ冬型　“もめんばたけ”

ミネラル補給？　“本田”＆私の指

山崎の谷戸で最もよく目にするチョウの一種。それもそのはず秋に羽化した個体は成虫で越冬し、その後 5 月から 10～11 月にかけて年 4 回発生するので、早春から晩秋までほぼ一年中見ることができる。冬でも好天で温かい日に日光浴をすることがある。さらに幼虫の食草は谷戸にいくらでもあるカナムグラ。成虫は花や腐った果実に集まる。ある 9 月の昼下がり、“本田”の脇を歩いていた私にまとわりついて離れず、ついには手に止まって汗（？）を吸い始めた。花と間違ったのなら許すが、まさか・・・。（たのくろまめお）

谷 戸 往 来

かまくらレンジャーズ　10／23(日)

稲刈り後の田んぼで、しっかりした畔作りのために、土寄せをしました。田んぼ足袋を履いて、まんのうを使い作業しました。

鎌倉中央公園フェスティバル 10/30(日)

稲わら、わら細工など、秋の香る品々を来園者にお届けできました。

青空自主保育なかよし会保全活動 10/30(日)

幼児たちの育ちの場としての谷戸で貢献しようと、父母たちが例年通り、疎林広場の小麦の種蒔き、炭焼き周辺畑の耕し、堆肥の切り返しに取り組みました。湿地復元や稲刈りなどを経て、作業も手馴れてきました。

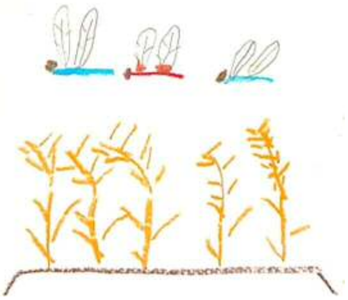
体験学習

Largo 小麦・大麦の脱穀　9/14

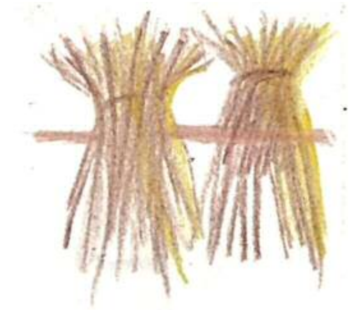
★麦の脱穀をしました。大麦は麦茶、小麦は中力粉(うどん)になるときいてこの麦が麦茶になるんだなあと思いながら麦茶をのみました。

★麦のからがつきささっていたくてかゆくておもしろかった。

★とうみで麦をふきとばしたのがたのしかった。

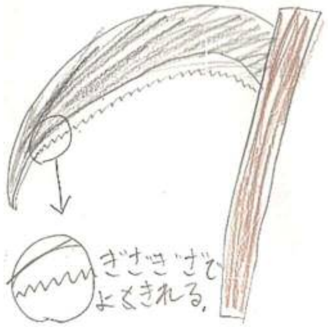


富士塚５年　稲刈り 10/3



★稲刈りをする前に、中央公園にある植物や動物をおしえてくれました。まずおしえてくれたのはチカラシバです。おすもうさんでもぬけない植物です。しかし子ども ３ 人でぬけたので、おすもうさんならぬけるよねという話しになりました。

★そして、私のいねかりの順番が来ました。ドキドキしていると、やってみると意外に「ざくざく」感があって気持ちよかったです。



★今回はぼくが待ちに待った稲かりでした。みんなが植えたいねは、ほをつけて立っぱに育っていました。稲刈りは田うないよりかん単かと思いましたが、かなり大変でした。なぜかというと田んぼが思ったより深かったからです。この田んぼから 500 kgも米がとれるというのはびっくりしました。

★谷戸歩きをした時、田んぼ一面にいねが育っていて、おうど色だった。昔は機械がないので、もっと広い田んぼで自分たちと同じやり方でやるのは大変だと思った。

★太陽で稲をほすために、稲をたばにしてくれたものを×に分けてほしました。なれてくるとそんなに力を入れなくてもかんたんにできるようになりました。

深沢小５年　稲刈り 10/３

★稲の先のお米を見て「おいしいお米になっているといいな」と思いました。田んぼに入るのも楽しかったけれど、自分たちのお米を食べるのもすごく楽しみです。

★かる時は「かま」を使いました。刃がのこぎりのようになっていました。かる時のコツは、刃の向きにそってかまを入れて、そのまま「ザクッ」と切るような感じです。いねを持つ手はグーにして、親指を上にします。

★先生たちも夏休みにざっ草抜きに行ってくれてたなんて、びっくりしました。

★６たば稲をかさねると次に６たばをわらでむすび「はさがけ」をします。これはお米を乾燥させる作業です。なぜこれをやるかというと、かったばかりのお米の水分は 20～25%で水分が多すぎてお米が変質してしまうので、約 ２ 週間乾燥させるとお米の水分量が 15%ぐらいになって、ちょうどよくなるそうです。楽しかったです。

★一つ一つ稲についている実が、10 個以上あってびっくりした。2022 年の夏は大きい台風がこなくてすごくよかった。

★ぼくは稲刈りでカマを使うのがこわかったけど、やってみると簡単でした。その後、ぼくはずっと稲をはこんでました。3 組の田んぼが終わったら、となりの田んぼ、終わったら 4 組の田んぼも手伝いました。

★まずかまを使うとき一番かっこいい切りかたは、一ぱつで切るけど、ぼくはギクギクしないと切れなかった。いねを切るときは水面から 2 cmぐらいになるようにがんばりました。

１１月

３日(木･祝) 田 籾干し、溝切り、畔土寄せ
５日(土) 田 籾干し、溝切り、畔土寄せ
６日(日) 田 籾すり･精米、わら切り ✤
雑 雑木林の除間伐
自 こども里山一日体験
「たのくろ豆の収穫」 ⚐
９日(水) 畑 たのくろ豆の収穫･吊るし干し☆
生 野鳥観察入門 ✤
１３日(日) 田 籾すり･精米、わら切り
雑 雑木林の除間伐 ✤
１４日(月) 畑 さといも掘り･洞入れ ✤
１６日(水) 農 たのくろ豆殻出し･選別 ✤
２０日(日) 田 籾すり･精米、わら切り ☆
自 父と子の里山体験
「竹細工」 ⚐
２１日(月) 畑 さつまいもの洞入れ
２７日(日) 秋の谷戸まつり
畑 にんじんの収穫

１２月

３日（土）かまくら市民活動フェスティバル
４日（日）田 落ち葉かき、苗床耕し、土ふるい☆
雑 雑木林の除間伐 ✤
かまくらレンジャーズ
５日（月）畑 大根の収穫・洗い・干し ✤
７日（水）生 冬の野鳥観察 ✤
１１日(日) 田 籾殻くん炭 ✤
畑 土壌改善 ✤
雑 雑木林の除間伐 ☆
自 里山探検隊「やきいも、谷戸あるき」
１８日(日) 田 籾殻くん炭
雑 雑木林の除間伐 ✤
講座「正月飾り作り」 ☆
１９日(月) 畑 落ち葉かき ☆
２１日(水) 農 たくわん漬け ✤
２５日(日) 雑 雑木林の除間伐

１月

８日（日） 田 籾殻くん炭、堆肥切り返し ✤
雑 雑木林の調査･測定 ✤ ☆
１４日(土) どんど焼き
１５日(日) 田 籾殻くん炭、堆肥撒き
雑 竹の伐採
自 里山探検隊「竹細工」
青空自主保育にこにこ会保全活動
１６日(月) 畑 畑の整備 ☆
２２日(日) 田 籾殻くん炭、堆肥撒き ☆
雑 間伐材整理 ✤
講座「雑木林の管理」 ☆
青空自主保育やんちゃお保全活動
２３日(月) 畑 荒起こし ☆
２９日(日) 田 籾殻くん炭、苗床耕し ✤
畑 じゃがいも畑の耕し ✤
雑 雑木林の除間伐
青空自主保育なかよし会保全活動

☆ 谷戸塾 ✤ 里山一日体験
各班活動 農家風休憩舎９:３０集合
（農芸班、自然遊び班は、１０時）
⚐ 会員以外の方 参加費500円/組

田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
農：農芸班 自：自然遊び班
生：生態系保全班 植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内
TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10 時～16 時
ホームページ: https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp
Ｅメールアドレス:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号（会報 113 号）は、２０２３年１月に発行予定
● 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647

山崎・谷戸の会